

適用拡大登録

区分	除草剤	
農薬名	ヤシマベ [®] ルーフ粒剤	協友ベ [®] ルーフ粒剤
登録番号	第 1 7 4 6 6 号	第 2 1 5 8 8 号
登録日	平成 20 年 3 月 5 日	
<有効成分>	ピラゾスルフロンエチル 0.070 % モリネート 7.0 %	

適用拡大登録内容

- (1) 「水稻」を「移植水稻」に変更する。
- (2) 使用時期「移植後 5～15 日（ノビエ 2.5 葉期まで）」及び「移植後 7～25 日（ノビエ 2.5 葉期まで）（移植前後の初期除草剤による土壌処理との体系で使用）」を「移植後 5 日～ノビエ 2.5 葉期 但し、移植後 30 日まで」に変更する。
- (3) 適用地帯を「全域の普通期及び早期栽培地帯」に変更する
- (4) 適用雑草名を整理し「水田一年生雑草及びマツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヘラオモダカ、ヒルムシロ、セリ、エゾノサヤヌカグサ(北海道)、オモダカ(東北、北陸、関東・東山・東海)、クログワイ(北海道を除く)、コウキヤガラ(東北、九州)、シズイ(東北)」とする。
- (5) 適用土壌「砂壤土～埴土(減水深 1.5cm/日以下)」及び「砂壤土～埴土(減水深 2.0cm/日以下)」を「砂壤土～埴土」に変更する。

【変更後】

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯
移植 水稻	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ウリカ ミスガヤツリ ヘラオモダカ ヒルムシロ セリ エツノサヤスガサ (北海道) オモダカ (東北、北陸、関東・東 山・東海) クログライ (北海道を除く) ユウキヤガラ (東北、九州) シズイ(東北)	移植後 5 日 ～ ¹ ビ ² エ ^{2.5} 葉 期 但し、移 植後 30 日ま で	砂壤土～ 埴土	3kg/10a	1 回	湛水 散布	全域の普通期 及び早期栽培 地帯

ピラゾ [®] スルフロニエチルを含む 農薬の総使用回数	モリネトを含む 農薬の総使用回数
1 回	2 回以内

変更後の注意事項

- (1) 使用量に合わせ秤量し、使いきる。
- (2) 本剤は雑草の発生前から発生初期に有効なので移植後 5 日からノビエ 2. 5 葉期までに時期を失しないように散布する。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にふれが出るので、必ず適期に散布するように注意する。ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヘラオモダカは 2 葉期まで、オモダカ、セリ、クログワイ、シズイは発生始期まで、エゾノサヤヌカグサは発生初期 まで、ヒルムシロは発生期まで、コウキヤガラは 3 葉期までに散布する。特にオモダカ、クログワイ、シズイ、コウキヤガラに対しては、所定の使用時期の範囲内となるべく遅く散布するが望ましい。オモダカ、クログワイ、シズイ、コウキヤガラは発生期間が長く、遅い発生のものまで十分な効果を示さない
ので、有効な後処理剤と組み合わせて使用する。
- (3) 移植前後の初期除草剤による土壌処理との体系で使用する場合には、雑草の発生状況をよく観察し、時期を失しないよう適期に散布する。
- (4) 散布に当っては、水の出入りを止めて湛水のまま田面に均一に散布し、少なくとも 3～4 日間は通常
の湛水状態（水深 3～5 c m 程度）を保ち、散布後 7 日間は落水、かけ流しはしない。
- (5) 砂質土壌及び漏水の激しい水田（減水深 2 c m / 日以上）では使用しない。
- (6) 浅植え、浮き苗が生じないように、代かき、均平化作業及び植付けは丁寧に行なう。未熟有機物を施用した場合は、特に丁寧に行なう。また、軟弱な苗を移植した水田では使用しない。
- (7) 梅雨期等、散布後に多量の降雨が予想される場合は除草効果が低下することがあるので使用をさける。
- (8) 本剤は、散布後田水面から薬剤が気化し、気象条件などで滞留した場合、畑作物、特にきゅうりに
薬害を生ずる恐れがあるので、きゅうりなどが栽植されている圃場に隣接した水田での使用はさける。
- (9) 本剤はその殺草特性から、いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがある
ので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。
- (10) いぐさの栽培予定水田では本剤を使用しない。
- (11) 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて
使用する場合や異常気象等は、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。